

利用者の皆さんの高齢化などに伴い現在の設備では安全面において不安に思うことが多く、また、支援する側の介護力の向上や加齢に合わせた支援プログラムの再構築が必要と痛感しています。利用者の皆さんが使っておられるテーブルや休憩されているソファなどの痛みも出てきていますので、今年度は設備の改築や備品の整備を行いハード面での快適に過ごしていただけるようにします。また、利用者の皆さん一人ひとりの状況や思いに合わせた活動が出来るよう、活動内容の見直しを行いながら作業以外の活動にも積極的に取り組み、一人ひとりが楽しみながらまたやりがいを持って取り組むことが出来るような活動や支援を行い、支援する側の介護力の向上を図りソフト面もあわせて快適に過ごしていただけるように努めてまいります。

地域の皆さまや保護者の皆さまのお力添えを頂きながら、藤原総括施設長、杉本園長と力をあわせ、利用される皆さんがその人らしく安全で安心して快適に暮らせるように、また心地よく過ごしていただくことが出来るように、利用者の皆さんのそれぞれの思いを大切にしていきたいと考えています。その為には福島エリアの職員集団が一体となり、利用者の皆さん一人ひとりが充実し安心して心豊かに生活を行うことができるように支援を行ってまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



高齢化する地域生活者ビーンズの支援

ビーンズ
管理者 杉本 伸一

4月1日付で共同生活援助(グループホーム)ビーンズ管理者を拝命いただき、福島エリアで勤務させていただいております。

ビーンズの管理者とはいえ、ベースは福島育成園に置いての支援となりますので、福島育成園の支援にも関わり、エリア全体を藤原総括施設長、長谷福島育成園施設長と三本の矢となり支援させていただくことになりました。



福島育成園は入所と通所が分かれていた平成17年4月から入所と通所が合併し新法移行直後の平成24年3月までの7年間在籍させていただいており、3年を経ての復帰となりましたが、この間、利用者の皆さんはほとんど替わらず「ただいま」という感覚です。

帰ってきて、まず感じたことは自身の体力の低下でした。以前は1階から4階まで日に何回も連続で階段を駆け上がる・下がることができていたのですが、今やゆっくり1回だけでも4階まで階段で上るだけでしんどさを感じてしまいました。3年間運動らしいことは何一つせずにいたことと決して認めたくはありませんが、50歳を過ぎた年齢によるものかなと・・・。

地域生活をしておられるグループホームの利用者さんのお顔を3年ぶりに見ると、変わらない方もおられますが、3年の月日を私以上に感じさせられる方もいらっしゃる、年齢が高くなると老いや衰えるスピードが速くなることを痛感させられました。

人間は確実に一年ごとに1歳ずつ年をとります、今はまだ衰えを感じさせない利用者さんでもいつかは老い衰えます。

生活を支援するグループホームとして、利用者の加齢に伴う生活面の変化に対し、今後の支援をどのように組み立てていくのか?どのように対応していくのか?足腰が弱り車いす生活になったらバリアフリー化が必要になりますが、現在バリアフリー化していないホームはどうするのか?作業所に通うことができなくなったら、日中はどのように過ごしていただくのか?など等、近い将来間違いなくやって来る高齢化の課題が一挙に頭をよぎります。その時になって利用者さんも支援員も慌てずに済むように準備していかなければなりません。

法人の基本理念が「障がいのある人が安心して心豊かに過ごせるように」とありますように高齢化しても将来に不安を感じることなく文字通り「安心して心豊かに過ごせるように」また行動指針三つの中の一つ、「私たちは、障がいのある人が地域で生き生きとした生活が送れるよう支えます」の文字通り高齢化しても地域で生き生きとした暮らしができるように支援することを念頭において携わりたい所存です。

